

2月

如月・初花月
February

金	1	友引	
土	2	先負	
日	3	仏滅	定休日
月	4	大安	
火	5	先勝	
水	6	友引	
木	7	先負	
金	8	仏滅	
土	9	大安	
日	10	赤口	定休日
月	11	先勝	定休日
火	12	友引	
水	13	先負	
木	14	仏滅	プチ茶会
金	15	大安	プチ茶会
土	16	赤口	プチ茶会
日	17	先勝	定休日
月	18	友引	
火	19	先負	
水	20	仏滅	
木	21	大安	
金	22	赤口	
土	23	先勝	
日	24	友引	定休日
月	25	先負	
火	26	仏滅	
水	27	大安	
木	28	赤口	

プチ茶会ご案内

2月 14木 15金 16土

毎年ご好評をいただいております「夜咄」の雰囲気の中、プチ茶会を今回も一階小間席にてお楽しみいただきたくご案内させていただきます。どうかお気軽にお洋服にてでもお立ち寄り下さいませ。



13代今泉今右衛門
色鍋島桃絵水指

プチ茶会ではこの水指を使用させていただきます



於 1階小間席
9:00am ~ 4:00pm

如月

写真はイメージです

13代は、若い頃から創作的な色鍋島の制作に取り組み、現代の角度からの色鍋島に意欲を燃やした。昭和50年、13代を襲名し、改めて「色鍋島今右衛門技術保存会」をつくり、重要無形文化財の総合指定を受けた。また、13代らしい作品をと研鑽に努め、染付吹墨・薄墨吹墨の技法を確立し、その作品は伝統工芸展での優秀賞、日本陶芸展での秩父宮賜杯、毎日芸術賞、日本陶磁協会金賞を受賞するなど高い評価を得、平成元年には重要無形文化財「色絵磁器」保持者(いわゆる人間国宝)の認定を受けた。 -今右衛門邸より-

トオル社長の珍道中 part 1 ~ 京都日帰りプチ旅行に思ふ ~

昨年12月「華乃会第一回バスツアー」京都日帰りプチ旅行！楽美術館見学 楽さんの講演・松栄堂さんでのお香作り。ブライトンホテルでのランチは楽さんの興味監修のフランス料理！バスの中ではお客様と貴重なひと時を過ごさせていただきました(´o`)ほんとうにありがとうございました。
楽さんのわかりやすいお話は、楽茶碗を身近な存在にさせてくださり、美術館展示品を時間の許す限り説明していただきました。皆さんも楽さんのファンになったと思います！
楽さんのお話はご自身監修の本「光悦考」と「楽歴代」を中心に。光悦と楽家のかかわりについて。楽さんのお話を一部ご紹介し「光悦は、京都に居あしき申し候 光悦が製作した手遊びの楽茶碗は楽家の手助けを得て製作されました。にもかかわらず、光悦茶碗には数茶碗を除いて、楽家の様式の影響は見られず、光悦独自の造形を表している。それが今日、光悦茶碗を類まれなる名碗に押し立てられているのです。織部の茶を学んだとはいえ、その影響もみられない。しかし根底に見られる創造精神は明らかに織部茶碗に通じる「カブキ」の意識が流れています」また窯については、黒樂を焼成する黒樂窯と赤樂を焼成する赤樂窯。その焼成方法の違いや特徴を説明していただきました。

part 2 亥年生まれ私が修業時代によくお参りした楽さん近くの【護王神社】のご紹介です



狛犬の代わりに猪の石像「霊猪像」

護王神社は、京都御所の西側、烏丸通に沿いに鎮座する神社で、平安京の建都に貢献された和氣清麻呂公をお祀りしている。確かな創建年は伝えられていないが、もとは洛西の高雄山神護寺の境内に清麻呂公の霊社として祀られ、古くから「護法善神」と称されていた。江戸時代末の嘉永4年(1851)、孝明天皇は清麻呂公の歴史的功績を讃えて正一位護王大明神の神階称号を授けられ、明治7年(1874)には「護王神社」と改称して別格官幣社に列せられた。明治19年(1886)、明治天皇の勅命により、華族中院家邸宅跡地であった京都御所蛤御門前の現在地に社殿を造営し、神護寺境内からご遷座。後に姉君の和氣虫虫姫も主祭神として合わせ祀りました。その後、崇敬者により境内の霊猪像(狛いのし)が奉納され、「いのしし神社」とも呼ばれ親しまれています。護王神社拝殿の前には、狛犬の代わりに雌雄一対の猪の石像「霊猪像」が建てられている。清麻呂公が都より宇佐へ向かう途中災難に遭われた際、三百頭もの猪が現れて公をお護りした事が、「日本後紀」に記されています。

その故事に因み明治23年建立され、神社のシンボルとして親しまれている。また清麻呂公の銅像は、平成10年清麻呂公1200年祭を記念して建てられ、台座の「和氣清麻呂公」の文字は裏千家鵬雲齋大宗匠の御揮毫です。 -護王神社邸より-



鵬雲齋大宗匠好亥大棗

この棗はご襲名後、初の亥歳にあたる昭和46年のお好みです。ちなみに私が12歳の少年でした

今月の推奨商品のご紹介 華乃会お買得価格でのご紹介 季節の茶碗特集です

色絵立雛茶碗 古垣嘉一 ¥15,800	桃色絵茶碗 山川敦司 ¥9,800	色絵節分茶碗 加藤永山 ¥4,800	四方色絵福柄茶碗 今岡三四郎 ¥15,000
----------------------------	--------------------------	---------------------------	-------------------------------



御題 光に因んで 白川郷の薄明かり photo by S.A

歌会始と御題

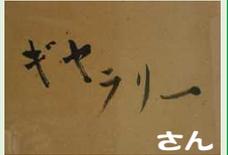
鎌倉中期 宮中で「内裏御会始」の記録がある。『晴和歌御会作法故実』という書物によれば、後円融天皇の永和年間の和歌御会始を模範として後白河天皇が明応10年正月の月次歌会を独立した儀式として執り行ったことが記されており、これが歌会始の直接的起源であると考えられている。江戸時代からはほぼ毎年開催され少しずつ変化をしながら現在に至る。明治7年一般国民からの詠進も広く認められるようになり明治15年(1882年)以降は、天皇の御製や一般の詠進歌が新聞や官報などで発表されるようになった。歌御会始で指定される題は勅題といわれていたが、昭和22年現在のように皇族のみならず国民からも和歌を募集し、在野の著名な歌人に委嘱して選歌の選考がなされるようになり。それともない、勅題はお題といわれるようになって上流社会の行事から一般の国民が参加できる文化行事へと変化を遂げた。

ギャラリー森田ホームページ
http://www.gallery-morita.co.jp/
gallery morita スタッフぶろぐ
http://ameblo.jp/gallerymorita/
https://www.instagram.com/gallery.morita/
Instagram

炭の原材料不足・高騰のため
現在の価格維持・商品確保が
大変困難になって参りました。
つきましては誠に心苦しいのですが
2月より新価格での販売となりますので
よろしくお願致します。

月刊「ぎやらいさん」編集プロジェクト 森田 画廊

月刊
いつもの



(題字・三輪休和)

111号

2019年2月発行

春雪 表千家十五代猶有齋
而妙齋 千宗目ご染筆色紙
平成三十一年 己亥つちのとい
旧年中は格別のお引き立てを賜り
厚く御礼申し上げます。
本年も「月刊いつものギャラリーさん」
何卒よろしくお願ひ申し上げます。



楽家の玄関に掛かる
光悦筆ののれん
「樂焼 御ちやわん屋」



鵬雲齋大宗匠御揮毫



和氣清麻呂公後